

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立堅田小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

教科に関する調査では、全国と同様に、国語科の「自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫」について、算数科の「深い理解を伴う知識の習得やその活用」に課題が見られました。また、漢字や文法が本校の課題となっています。一方で算数の無答率（答えを書いていない問題）が大幅に減少し、全国や滋賀県よりも無回答率が低かったです。児童質問紙調査では、「自分にはよいところがある」、「いじめを許さない」、「生活の中で幸せを感じると思う」と答えた割合が高いです。

《強み・弱み》

〈国語〉

「話すこと・聞くこと」「読むこと」の内、回答を選択する問題については、全国や滋賀県に比べて正答率が高いものがありましたが、「書くこと」については全国や滋賀県に比べて正答率が低いです。記述式の問題の正答率が低かったことから、昨年度から実施している「書く力」を高める取り組みを継続します。

また、漢字の書き取りの問題や主語と述語を捉える問題では、全国や滋賀県に比べて正答率が低いです。「読み解く力」とともに、文章を書くために使える「漢字力」や「文法力」の向上を図っていきます。

〈算数〉

「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の問題で、全国や滋賀県に比べて正答率が高いものがありました。特に、道のりと時間から速さを求める問題では、全国や滋賀県の正答率を大きく上回りました。

一方で、「数と計算」の内、小数のわり算や計算の仕組みを説明する問題、また、「図形」に課題が見られました。特に、見取り図や、球の直径の長ささと立方体の一辺の長さの関係の捉え、立方体の体積の求め方を立式する問題など、立体的な感覚を問われる問題に課題が見られました。国語と同様、記述式の問題の正答率が低かったことから、式や図、グラフを「読み取る力」「読み取ったことを説明する力」の向上を図っていきます。また、図形を立体的に捉えて考えるよう教育活動を工夫していきます。

【指導の充実に向けて】

- ☆学びの基盤を確かなものにするため、堅田小3つの約束（あいさつ・そうじ・聴く）を徹底していきます。
- ☆子どもたちの学習意欲は徐々に向上しています。学習に対する子どもたちの意欲・やる気・やってみたいという気持ちを大切に授業を目指し、より一層の授業改善に取り組みます。
- ☆基礎・基本である計算問題や新出漢字の定着について、授業や家庭学習などで繰り返し取り組んでいきます。従来のドリル学習だけでなく ICT 機器を活用し、個々の課題にあった問題を反復できるようにするなど、子どもたち自ら意欲的に学習に取り組み、基礎学力を高められるようにします。
- ☆学年の実態に応じて「書く」活動を積極的に取り入れていきます。これまでの取組で「書く」ことへの抵抗は少なくなってきたことから、短時間で「書く」、条件に合わせて「書く」ということを意識して取り組んでいきます。
- ☆「読み解く力」の向上に向け、読書活動の定着・充実への取組（朝読書・読み語りなど）を続けていきます。また、図やグラフ、表などの資料の読み取りも重視していきます。
- ☆ソーシャルスキルトレーニングを取り入れることで、普段の授業・学習にお互いを尊重しながら積極的に課題に取り組む姿勢を育てます。
- ☆家庭・地域・学校で、子どもを認めほめる取組を進めていくことで、子どもたち一人ひとりがより一層自己肯定感を感じられるよう取り組みを進めていきます。